

【P4D】 p4 verifyコマンドの高速化について

概要

p4 verifyコマンドに新しいオプション"-Z"が搭載されました。

このオプションを指定すると、ダイジェストとファイル長のチェック処理で、リビジョンテーブル(db.rev)ではなく、ストレージテーブル(db.storage)を使用ようになります。

このオプションが付与されたコマンドでは、遅延コピーされたファイルがチェックされるのは1回のみであるため、処理速度が大幅に向上します。

説明

検証環境において、timeコマンドを付与して実行した結果は以下の通りです。

"-Z"オプションなしの場合、実行に1.5秒ほど要していることが確認できます。

コマンド実行例："-Z"オプションなし

```
p4 -u super -p server:port verify -q //...
```

実行結果："-Z"オプションなし

```
Real 0m1.529s
User 0m0.022s
Sys 0m0.028s
```

つぎに"-Z"オプションを付与して実行します。
"0m0.098s"と大幅に時間が短縮されていることが確認できます。

コマンド実行例："-Z"オプションあり

```
p4 -u super -p server:port verify -q -Z //...
```

実行結果："-Z"オプションあり

```
Real 0m0.098s
User 0m0.011s
sys 0m0.000s
```

バックアップ取得（チェックポイント作成）前のファイル検証時間でお困りの方は、
P4Dサーバを2019.2以降にバージョンアップしていただき、このオプションの利用をお勧めいたします。

補足

- ・リビジョンテーブルとは？
ファイルの改訂記録が登録されたテーブルです。
- ・ストレージテーブルとは？
P4D2019.1に追加されたバージョン化ファイル追跡用のテーブルです。
- ・遅延コピーとは？
Helix Coreサーバはブランチを作成する際に、実ファイル(ディポ内のバージョン化ファイル)を同時にブランチ先へ複製しません。これはブランチが作成される度に、ブランチ先にファイルが複製され、ディスク容量が枯渇することを回避するためです。
ブランチ先でファイルが初めて更新された際に、ブランチ元からファイルが複製されます。